

「

BELIEVE

2014  
春号  
VOL.48

」

**特集1 外来通院治療センターが広く、新しくなりました**

外来通院治療センター長 有本 明

**特集2 外来・入院アンケート調査**



20111111 尾柳佳枝 ・制作年/2011 ・素材/クレヨン、色鉛筆、カーボン紙、紙

シリーズ **情熱の白衣 医師の素顔**④ 新生児・未熟児科部長 **葭井 操雄**

- 食だより「エネルギー」／がんサポートチームからのお知らせ／お薬ミニ知識
- Report 「フィリピン中部台風緊急救援事業に、職員2名を派遣」／春の病気「花粉症について」

**大阪赤十字病院の基本理念**

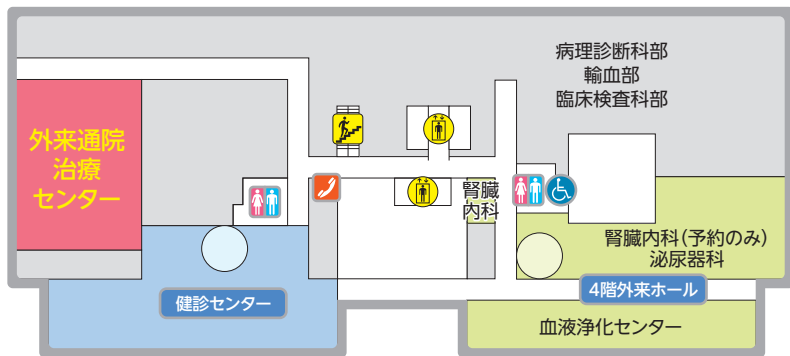
わたしたちは  
人道・博愛の赤十字精神に基づき  
すべての人の尊厳をまもり  
心のかよう高度の医療をめざします

**患者さんの権利**

1. 一人の人間として、人権をまもられる権利があります
2. 良質かつ適切な医療を、公平に受ける権利があります
3. 医療についての情報や治療上の説明を受ける権利があります
4. 自分自身の治療について、医療行為を選択する権利があります
5. プライバシーがまもられ、個人情報保護される権利があります
6. 自己の診療録等の医療情報の開示を求める権利があります
7. 他施設の医師の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります



## 本館4階



外来通院治療センターでの治療の流れ

各診療科で担当の医師と治療方針を決定する

担当の医師が外来通院治療センターのベッドを予約する

センターでの治療開始

ご注意ください

- ・完全予約制
- ・初診外来はございません



▲外来通院治療センター・小児用個室

おかけしていただきました。この度、ベッド数が増えることで、余裕を持ってご希望のお時間で予約をしていただくことができるようになります。リラックスして点滴を受けていただくために、ベッド1床あたりのスペースを拡張、内装を明るい雰囲気になりました。小児の患者さんのための個室や、施設内に相談室を設けました。患者さんの日常生活の質を保ちつつ、十分な治療を受けていただけるよう、総合的にサポートいたします。



▲外来通院治療センターの専門スタッフ

抗がん剤治療による副作用には、白血球減少や血小板減少といった骨髄抑制、口内炎や吐き気、便秘や下痢、手足のしびれなどさまざまなものがあります。副作用の出現により、患者さんやご家族の皆さんの日常生活・社会生活に影響を及ぼす可能性があります。外来通院で抗がん剤治療を継続していくためには、患者さんご自身やご家族で副作用の対処ができるようにしていくことが必要になります。このような副作用に対する患者さんへの支援やケアを、医師やそのほかの医療スタッフと連携して、私たち看護師が中心となって行っています。副作用を体験されていることや、ケアに困っていることなどがあれば、些細なことでもご相談ください。

当院では、そのような副作用に対して、チームで取り組んでいく体制を整えています。このチームには、主治医や外来通院治療センターの看護師だけでなく、院内のさまざまな医療スタッフが関わっています。4月の移転に伴い、薬剤師がセンター内に在駐することになり、医師や看護師、薬剤師が連携し、これまでよりさらに安全で専門性の高い支援が行えるようになるかと考えています。



▲外来通院治療センター

昨年4月より、外来通院治療センターが2階から4階に移転しました。それに伴い、ベッド数がこれまでの17床から27床に増えました。同センターは、普段は自宅で生活しつつ、外来通院で定期的に抗がん剤の点滴治療を受ける方のための施設です。ベッド、機能、専門スタッフを集中配置し、患者さんに安心して治療を受けていただくことを目的としています。

昨年の外来通院治療センターの延べ患者数は8,274人、1カ月当たりでは約700人でした。平成15年に開設した当時の約200人から、3.5倍となっています。1回の治療時間が長い治療法が増えてきて、ベッドが足りず、治療を延期せざるを得ない場合があり、患者さんには大変ご迷惑をおかけしてしまいました。この度、ベッド数が増えることで、余裕を持ってご希望のお時間で予約をしていただくことができるようになります。リラックスして点滴を受けていただくために、ベッド1床あたりのスペースを拡張、内装を明るい雰囲気になりました。小児の患者さんのための個室や、施設内に相談室を設けました。患者さんの日常生活の質を保ちつつ、十分な治療を受けていただけるよう、総合的にサポートいたします。



外来通院治療センター長  
有本 明 (第消化器外科部長  
外科統括部長)

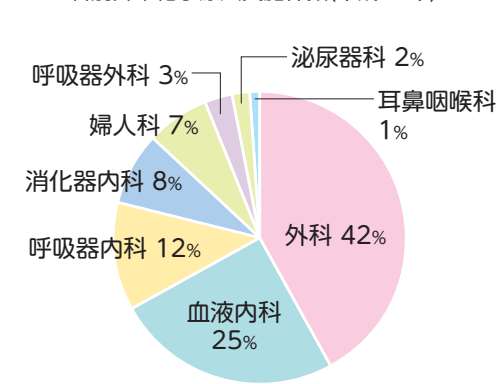
# 外来通院治療センターが 広く、新しくなりました



がん化学療法看護認定看護師  
小袋 和子

外来通院治療センターでは、多様な疾患に応じた化学療法を行っています。化学療法は日々進歩しており、当院ではガイドラインに沿った安全な治療を行っています。新薬や新しい治療方法の開発は、患者さんにとっては治療の選択肢が増えることとなりますが、同時にそれに伴うさまざまな副作用を体験することになります。

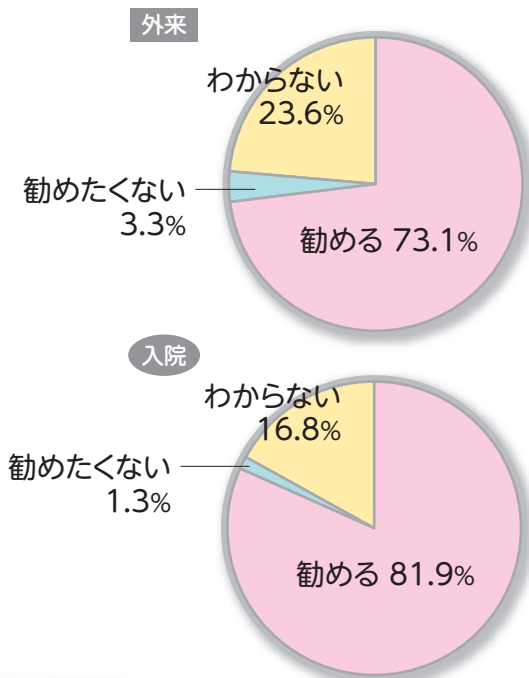
科別外来化学療法実施件数(平成25年)



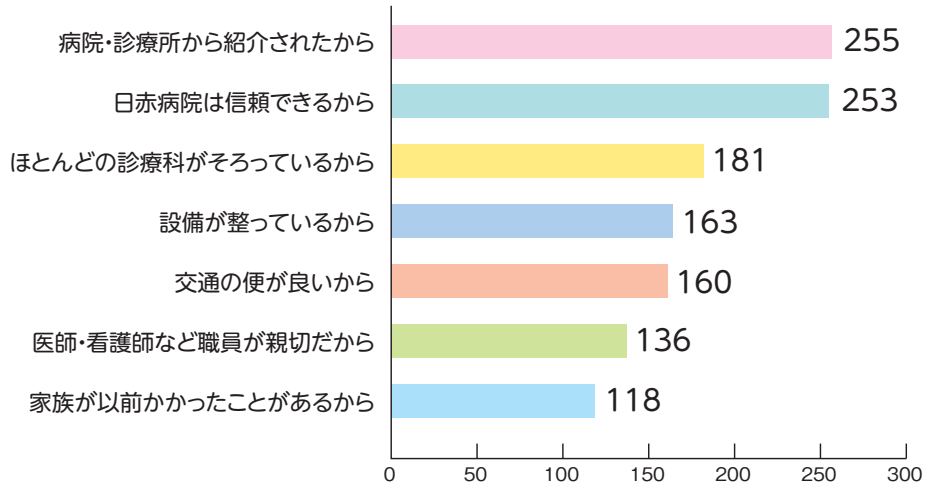


# 外来・入院アンケート調査

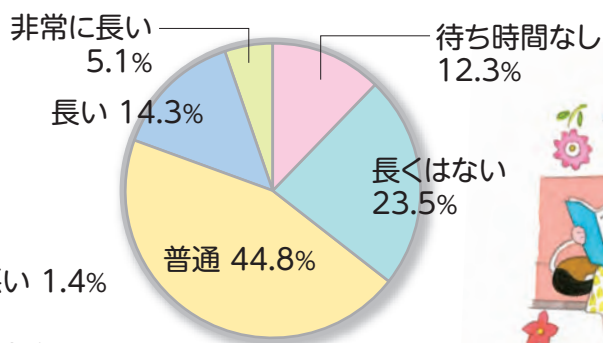
Q 知人や家族に当院を受診するよう勧めようと思いませんか？



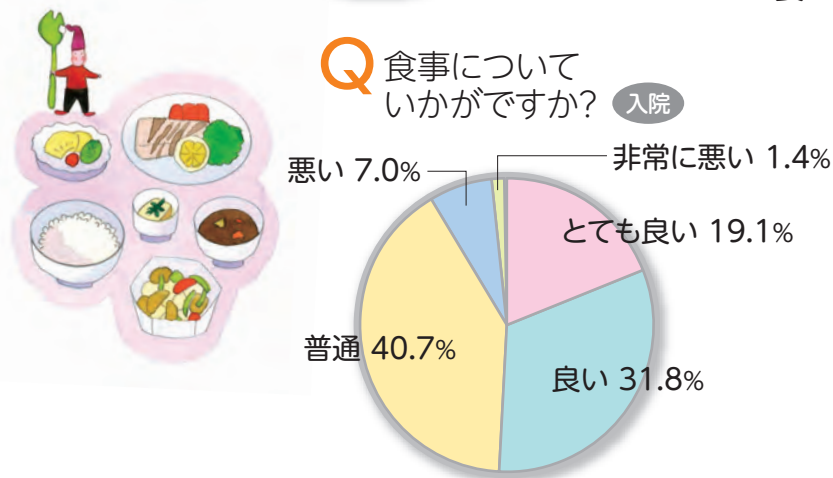
Q 当院を選ばれた理由は？ (上位) 総合



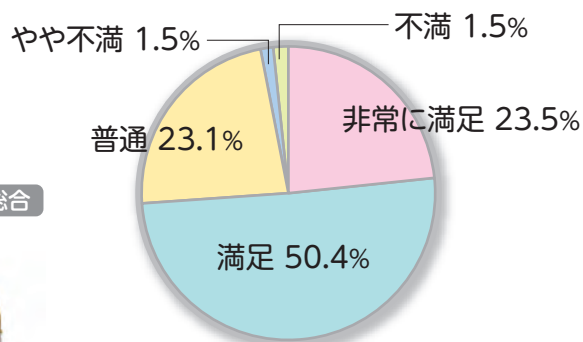
Q 待ち時間はどうでしたか？ 外来



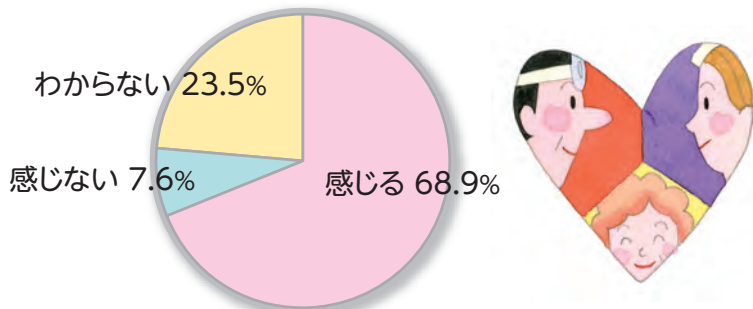
Q 食事についていかがですか？ 入院



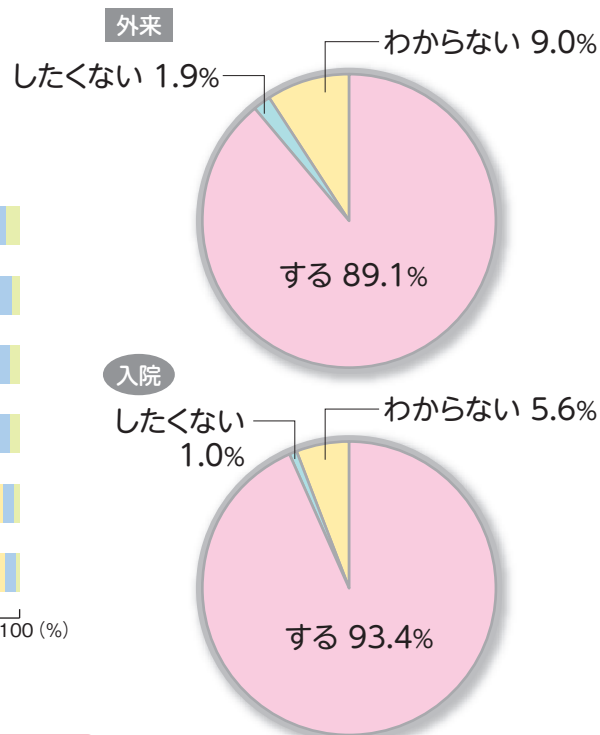
Q 総合的に見て、外来・入院中のサービスに満足していますか？ 総合



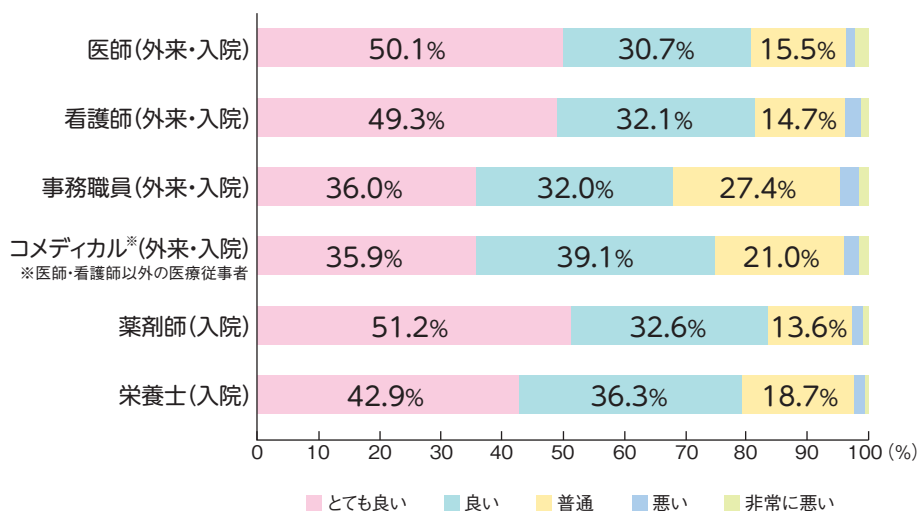
Q 当院の基本理念として掲げる「こころのかような高度の医療」を感じられますか？ 総合



Q 今後も当院を受診しようと思いませんか？



Q 職員についての総合評価は？ 総合



平成26年2月24日(月)～3月7日(金)にかけて、「外来入院アンケート調査」を実施しましたので、結果をご報告します。皆さんの「意見をもとに」ご期待に添えるよう、また「こころのかような高度の医療」を提供していけるよう全力を尽くしてまいります。アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。

調査対象／大阪赤十字病院 通院中・入院中の患者さん  
調査方法／無記名回答、外来：1・2・3・4階へ調査用紙設置、入院：調査期間中に入院している患者さんへ用紙配付

今回のアンケートで、皆さんから寄せられたご意見の一部を、本誌7ページでご紹介しております。そちらもぜひご覧ください。

# 葭井 操雄

新生児・未熟児科部長



**新生児医療は24時間態勢。人、技術、設備を充実させて取り組みたい。**

短い期間の関わりですが赤ちゃんの成長はやっぱりうれしい。

集中治療室6床、継続保育治療室6床。これは救急の患者さんが運ばれてくるICU(集中治療室)と同じく、新生児・未熟児医療専用の集中治療室(NICU、GCU)の病床数である。大阪赤十字病院では、平成6年に未熟児室が発足、平成23年にGCU(継続保育治療室)が開設された。その間にあたる平成11年に当院に赴任された葭井医師。「もとは小児科を専門としていましたが、前任の部長から推薦をいただき、この科に所属することになりました。ここでは院内外で生まれた赤ちゃんの病氣治療、成長過程でのフォローのほか、分娩の立会い、帝王切開、母胎搬送など、年間700人ほどの患者さんを診ています。」

話されるが、「兄が整形外科の医師」なのだそう。医師になることも、大学からこの病院に異動したことも、自然な流れだったのではと想像する。

「赤ちゃんは痛いところがあっても何も言えないのですが、泣いたり機嫌がいい様子から、わかることがあります。」小さい赤ちゃんゆえの治療の難しさ、その環境においては、大人以上に配慮をするという。「モニターやアラームの音量を下げる、夜間は照明を落とすなど、音と光のストレスを少なくして、お母さんの胎内にいるときと同じような環境をつくりたい。」

また、両親の面会時間を増やし、母親とのスキンシップによって心身の発達を促す『カンガルーケア』を提案するなど、スタッフと一緒に相談しながら取り組んでいる。

「NICU、GCUでの治療から、退院していくまでの関わりですが、その赤ちゃんが成長して、元

## MISAO YOSHII

3月16日、大阪府生まれ。近畿大学医学部卒業後、近畿大学医学部附属病院、市立貝塚病院に勤務、PL病院にて研修。平成7年より2年間当院に勤務し、近畿大学医学部附属病院を経て、平成11年再び当院に。昨年4月に新生児・未熟児科部長に就任した。

気になっていく姿を見られるのはやはりやりがいいが、ありますね。15年ほど前にシンガポールから来日中に出産することになった患者さんが、昨年会いにきてくれました。未熟児で生

まれた男の子が中学生になっていて、覚えていてくれたことに驚きました。」

**休日はドラマや映画鑑賞。私だけのくつろぎ時間です。**

葭井医師自身も中学生の男の子を2人持つお父さんである。休みの日といえば「朝からテレビで海外ドラマや映画を観ています。朝しかテレビのチャンネル権がありませんので。」仕事帰りに、デパ地下に立ち寄って食料品を見ることが好きなのだそう。「お惣菜やいろいろな食品があって、試食することが楽しいですね。家族にキーを買っていくこともありますよ。」



くまもんが好きで、会いに行ったことも。



お気に入りのくまもんグッズ。

入院患者数は年々増加し、救命率も上がっている新生児・未熟児科の課題は、人手が足りないこと。「24時間態勢で治療にあたりますが、救急的な対応、重症を抱えた場合には、外科的技術も大切です。スタッフを増やして、産科・小児科との連携をとって、確実でスムーズに医療が提供できるように努めていきたいですね。」

## 看護師レポート ◆ 48



**知識を蓄え、経験を重ねて自分が納得できる仕事を**

**安藤 享子**

私が看護師になろうと思ったのは、子どもの頃、喘息で入院したときに、看護師と接していたからだと思えます。国際的に活動できる看護師になりたいと当院を選び、国際医療救済部主催の英語の勉強会にも参加しました。その勉強会が縁で救済部研修にと声がかかり、昨年ハイチ共和国での復興支援事業を経験しました。現地では看護活動よりも管理業務に追われる日々。現地スタッフの管理や、活動に必要な物資の調達、他部門との調整など、スタッフが活動しやすい環境づくりへの支援活動でした。現地スタッフに、物の扱い方やパソコンの使い方といった基本的なことを教えたり、仕事に対する意識の違いをどう縮めるかなど、話し合いをしました。言葉も文化も異なるため、本当に理解を得られたか、また、行動変容を促すことが難しく、人との関わり方やその他にも公衆衛生の面など、いろいろと勉強不足を感じました。

当院の思い出では、ある白血病患者さんの看護です。移植を受け、医師・看護師・薬剤師とスタッフが、チームとなってケアを行いました。外出できない生活で「こうしてほしい」と希望を言われない患者さんでしたが、担当看護師からの情報を共有して、どのように関わっていくかを相談しながら対応しました。残念な結果になりましたが、「もっとやれることがあったのでは」という思いもありましたが、「やれるだけのことはやったね」とどこか納得ができた看護体験をさせていただきました。

休日は、旅に行ったりします。昨年はペルーのマチュピチュへ行きました。最近では岡山の大原美術館にも行きましたね。ロッククライミングなど、アクティブなことも好きです。

病棟勤務に戻ってからは、自分の仕事を全体的な目、管理者の視点で見られるようになったと思います。看護の仕事、管理の仕事もまだまだ勉強不足ですが、半年がたった今、また国際救済の支援活動に行きたいです。もっと勉強をして、経験して、自分が納得することができる仕事をしたいですね。



行動派な安藤さん。ツアーに申し込んだマチュピチュの旅先で。



# 食だより エネルギー

栄養管理課 管理栄養士 山口 翔平

たんぱく質制限、また、塩分、脂質などのさまざまな栄養素が関係しています。今回は、エネルギーを調節する方法について紹介したいと思います。

エネルギーは、世間でいう「カロリー」と同じ意味で考えていただいて結構です。エネルギーを摂りすぎてしまうことが、体重増加につながってしまうので、エネルギーの調節することが大切です。栄養素のなかでは、たんぱく質、脂質、炭水化物が三大栄養素と言われ、それぞれ1gあたり4 kcal、9 kcal、4 kcalとなっています。つまり、脂質のエネルギーが一番高く、体重増加につながりやすいと言えます。

現在、食の多様化によって、あらゆるものが手に入る時代になっています。インターネットで食品を購入することができたり、スーパーマーケットでも外国産の食べ物や食材が多く見られたりします。そのような現状で、疾病によっては食事制限が必要になる方もいらっしゃると思います。エネルギー制限、

## エネルギーを抑える食事のポイント

- **肉料理** / 脂の少ない部分を使う。  
鶏肉は皮を取って使う。
- **調理法** / 茹でる、焼く、蒸す、煮る、生食など、油の少ない調理方法を選ぶ。  
炒める、揚げの場合は、余分な油を取り除く。
- **揚げ物** / 唐揚げ、天ぷらなど、衣がつかような揚げ物は、油を吸収しやすいため、特に注意して油を取り除く。
- **外食** / 油が多くなりがちな洋食ばかりが続かないように、気を付ける。  
和定食のような、野菜の入ったバランスの良いものを選ぶ。
- **野菜** / 低カロリーな上に食物繊維が豊富。  
満腹感が得られたり、食事にボリュームが出たりするため、食へ過ぎ防止につながる。



他にもエネルギーを抑えるポイントはいくつかありますが、ご自分に合ったポイントを見つけて継続することが、食事療法の第一歩です。体を遣いながら食事をすることを、心がけるようにしてください。

がんサポートチームからのお知らせ vol.21

がんサポートチーム 緩和ケア外来  
消化器外科部副部長 端 裕之



## 「自分らしい療養」を考えてみませんか

「病気が進んで体がしんどくなってきたとき」のことを考えたことはありますか？ 皆さん、体調を良くするために療養しているのに、体調が悪くなって外来通院がづらくなってきた場合について考えることに、抵抗を感じられると思います。多くの方々は、通院がづらくなったら一旦入院し、元気になったら、退院してもとの生活に戻ろうと考えますが、進行性の病気の場合には、入院中に足が弱くなったり、しんどさのせいで身の回りのことができなくなったりすることが少なくありません。そうすると、入院前と同様に自宅で生活することが難しくなるため、入院療養を続けていただくことが一般的でした。

しかし、最近は違ってきています。「住み慣れたわが家で療養したい」、そう思われる方には、介護保険や医療保険を使って、在宅介護や往診、訪問看護のサービスを受け、自宅で療養をすることが可能になっています。

さらに、訪問医療・介護の体制を外来通院時に導入し、病状に合わせて、頻度や内容を調節することも可能になってきました。がん対策基本法/がん対策推進基本計画により、ここ数年間で在宅医療はとて充実しています。家族に囲まれた慣れ親しんだ環境での療養を、選んで良かったとのご意見も増えてきました。

在宅医療は患者さんやご家族にはまだ馴染みが薄く、いろいろな面で心配される方もいらっしゃると思います。当院では、在宅療養が難しい場合にも、安心して療養していただけるよう、当院と連携している地域の病院をご紹介します。入退院支援課またはがん看護相談室にご相談いただくか、主治医から緩和ケア外来を紹介受診してください。今後の療養について、少し早い段階から考えて準備しておくことが、質の高い療養を続けることに繋がります。ご家族と一緒に、今後どのような療養をしたいのかを話し合っておくことも重要です。これからのあなたらしい生活について、私たちと一緒に考えさせてください。



### がん看護相談室

当院では、がん全般に関するさまざまなご相談をお受けしています。

TEL:06-6774-5192 FAX:06-6774-5126  
syakaika@osaka-med.jrc.or.jp

## お薬ミニ知識



薬剤部 薬剤師 秋山 花世

## 腎臓とお薬

腎臓と聞くと、どのようなイメージをお持ちでしょうか？「肝心」という言葉は、「肝腎」とも書きます。すなわち、腎臓は心臓や肝臓と同じくらい、人体にとって欠くことができない大事なものであるということです。腎機能は加齢による影響を受けやすく、腎疾患がない方でも、腎機能は、80歳では20~30歳の健常者の半分になると言われています。そのため、それぞれの腎機能に応じた薬を服用することが、重要になります。

### ●薬はどうやって体からなくなる？

腎臓から消失する経路と、肝臓で分解されて消失する経路があります。

### ●腎機能が低下したら、薬はどうなる？

腎機能が低下した状態で、腎臓から排泄される薬を服用すると、正常人よりも排泄されにくい状態になります。つまり、薬が体の中に溜まって、大量の薬を飲んだときと同じ状態になり、副作用の危険が高まります。そのため、主治医が腎機能に応じた薬の量を考慮して、処方しています。

しかし、薬局・ドラッグストアで購入できる薬は、腎機能のチェックがわからないため、知らないうちに危険な状態になってしまうことがあります。薬剤師・登録販売員に相談してから服用するようにしましょう。

### ●腎機能が下がっているときに気をつけたいといけぬ薬は？

前述の腎臓から排泄される薬です。4種類をご紹介します。

- ① **便秘薬・胃薬** / 便秘薬や胃薬のなかには、マグネシウムやアルミニウムを含むものがあります。腎機能が悪い方は、体に溜まってしまいます。
- ② **解熱鎮痛薬** / 非ステロイド性消炎鎮痛剤です。連続使用は悪化の原因となります。しかし痛みをがまんすることは苦痛なので、医師と相談して、腎臓への負担が少ない飲み方へ、変更を検討しましょう。
- ③ **造影剤** / 造影検査で使用される薬です。通院している病院での検査では注意してくれませんが、初診などの際はご自身で申告する必要があります。
- ④ **抗生物質** / 抗生物質にもたくさん種類があり、その用量も一人ひとりに合わせて処方されます。自己判断で他人に処方された薬を服用することは危険ですので、絶対に止めてください。



## フィリピン中部台風緊急救援事業に、職員2名を派遣

〈平成25年12月20日～平成26年2月12日〉



大阪の小学校から託された千羽鶴などを、現地の小学校に寄贈しました。



平成25年11月8日、フィリピン中部を台風30号が直撃しました。レイテ島のタクロバンを中心に、セブ州、イロイロ州などの多くの地域が、猛烈な暴風雨にさらされました。台風30号は中心気圧895ヘクトパスカルのスーパータイフーンで、死者6,092人、行方不明者1,779人、負傷者27,665人、総被災者約1,608万人、損壊家屋約114万棟と、甚大な被害をもたらしました。

フィリピン赤十字社から要請を受けて、日本、ドイツ、イギリスなどの各国赤十字社が支援を行いました。日赤はフィリピン・セブ島の最北端で診療クリニックを展開し、当院からは看護師1名と臨床工学技士1名を、平成25年12月20日から平成26年2月12日まで派遣しました。

現地の医療施設は全壊・半壊の被害を受けているところが多く、日赤は診療所を開設するとともに、巡回診療を積極的に行い、できるだけ多くの被災者が医療サービスを受けられることができるよう取り組みました。さらに活動当初から、災害後の不衛生な環境が原因となる感染症などを予防するため、手洗いや簡単な傷の手当などの公衆衛生活動を巡回診療とともに行いました。また、今回初めて、子どもの被災者などを中心として、こころのケアも行いました。

技術要員、事務管理要員として派遣した臨床工学技士は、主に診療クリニックの浄水装置や発電機などの管理と、撤収作業に向けた備品目録の作成を担当しました。同時に屋根が吹き飛んだクリニックの修復作業を行い、再び診療ができるようにしました。

1月23日には、堺市立光竜寺小学校より寄贈された折り鶴とメッセージカードの贈呈式を行い、現地の子どもたちを手渡しました。子どもたちが折り鶴に興味津々に眺めていたことがとても印象的でした。1月31日に台風2号がセブ島に上陸し、要員に外出禁止令が出るなどの出来事もありましたが、撤収作業を完了し、2月12日に全員が無事帰国しました。



設営したテントクリニックで手当てをする本院看護師。



現地で展開したテントクリニック。

## 春の病気 花粉症について

耳鼻咽喉科部 医師 山田 光一郎



花粉症とは、植物の花粉が原因となり、くしゃみや鼻水・鼻づまり・目のかゆみなどのアレルギー症状を起す病気です。有病率は約30%と報告されています。花粉の種類は多種多様で、50種類以上とも言われています。日本の花粉症患者のほとんどは、スギ花粉が原因で発症している「スギ花粉症」です。平成26年のスギ花粉の飛散開始は、近畿地方では2月中旬でした。総飛散数は、例年並みかやや多く、飛散数が多かった前年(平成25年)に比べると、やや少ない見込みです。スギ花粉の飛散量がピークを過ぎた後は、ヒノキ花粉の飛散量が増え、4月上旬から中旬にかけてピークになる見込みです。

花粉症の診断には、問診と診察がとても重要です。くしゃみや発作の回数、鼻をかむ回数、鼻づまりの程度、鼻の粘膜の腫脹や色調、鼻水の性状や分泌量などで重症度を判断します。また、血液検査(血清特異的IgE抗体検査)をすることで、花粉を含めたアレルギーの原因物質を同定できる場合もあります。

花粉症の治療法には次のようなものがあります。

### ①花粉の除去と回避

外出先から帰宅した際、うがい・洗顔・鼻をかむ、部屋の掃除、花粉が多いときには外出を控えることなどがあります。また、メガネやマスクなどの着用も大変有効です。

### ②薬物療法

抗ヒスタミン薬などの抗アレルギー薬の内服や、点鼻薬、点眼薬などがあります。

### ③手術療法

電気凝固法やレーザーなどによる鼻粘膜焼灼術、鼻腔形態異常があるときは鼻腔整復術(鼻中隔矯正術、粘膜下甲介骨切除術など)、鼻漏改善を目的とした後鼻神経切断術などがあります。

### ④アレルギー免疫療法

減感作療法と呼ばれることもあります。近年、舌下免疫療法などの新しい治療法も出現し、効果が期待されています。

花粉症は命にかかわる疾患ではないものの、症状によって仕事や勉強、睡眠への影響が出ることが多く、生活への不満度は高いと考えられています。正確な情報をもとに、適切な予防と治療をすることが大切です。





# Topics Box

トピックス & ニュース

## Seminar

### 「親と子の防災体験セミナー」を開催します

夏休みに小学4～6年生とその保護者を対象とした防災体験セミナーを今年も開催いたします。詳細は6月頃に当院ホームページに掲載予定です。ぜひ、お申し込みください。

- 日時／平成26年8月3日(日)
- 場所／大阪赤十字病院敷地内
- 定員／200組(先着順)
- 申込期間／6月16日(月)～7月18日(金)
- 申込方法／メールかハガキに、①郵便番号 ②住所 ③電話番号 ④生徒氏名 ⑤生徒年齢 ⑥学校名 ⑦保護者氏名 ⑧保護者年齢 を記載の上、お申し込みください。

〈送付先〉大阪赤十字病院 国際医療救援部  
e-mail: imr@osaka-med.jrc.or.jp  
住所: 〒543-8555

大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-30



昨年のセミナー実施風景

## Event

### 防火訓練が行われました

当院では、2月19日(水)に、防火訓練を実施しました。訓練は、「深夜2時に本館12階A病棟洗濯室から出火」という想定のもと、模擬患者さんを屋外避難場所に避難誘導するというシナリオで、病院職員、看護学生ら70人あまりが参加し、通報・初期消火・避難誘導などの内容で行いました。

訓練の参加者は、火災の状況、患者さんの安全確認などを互いに報告、連携を取り合いながら、迅速な避難誘導に取り組みました。避難場所では、天王寺消防署員から消火器の取扱説明、水消火器を用いての噴射練習などの消火器使用訓練を行いました。

最後に天王寺消防署員からの講評、隠岐院長からのあいさつがあり、本年度の防火訓練は無事に終了しました。当訓練は消防法上、毎年実施することが義務付けられていますので、来年度以降も消防署や消防設備業者と連携し、訓練内容の充実を図り、職員の消防に関する意識向上に努めていきたいと思っております。

## News

### ボランティア募集

院内で活動していただけるボランティアを募集しています。活動内容は、入院中の方の車椅子移送介助、車椅子整備、外来フロア案内、病棟への移動図書、7階院内図書室活動、洗濯物たたみ、衛生材料の作成、日本赤十字社大阪府支部での縫製作業など、さまざまな活動を行っています。

- 活動日と時間／月・火・木・金 9:30～15:30  
水 9:30～12:00  
※病院休診日の活動はありません。

- 対象者／65歳までの健康な方
- 面接・見学の後、体験ボランティアを経て、正式にボランティア会員登録となります。
- ご興味のある方は、下記までお問い合わせください。
- 問い合わせ先／医療社会事業課  
TEL:06-6774-5192 (平日8:30～17:00)

## Event

### 「スプリングコンサート」が開催されました

3月9日(日)午後2時から1階正面玄関ホールで、スプリングコンサートが開催されました。今回は、当院で診療を行っている3名の医師によるピアノ・バイオリンの演奏と、海外での公演活動の経験をもつ、ソプラノによる歌声が披露されました。曲目はバッハなどのクラシックや「千の風になって」などで、フィナーレでは観客の皆さんと「ふるさと」を合唱しました。会場には約200名の観客がご来場になり、手術を控えているがコンサートを聞いて、楽しい気分になれたという声や、親しみやすい曲で聞きやすかったという声が寄せられました。

次回は6月頃に開催する予定です、当院ホームページや院内ポスターなどでご案内いたします。

▶ <http://www.osaka-med.jrc.or.jp/>



## 「外来・入院アンケート調査」より

※アンケート結果を本誌3ページでご紹介しています。そちらもぜひご覧ください。

皆さんからのご意見

### ●「入院中の食事」

献立メニューの食材名、調味料の配合などを個人に配っていただければ、なお一層、理解しながら食べることができたかと思えます。

→ご意見ありがとうございます。現在、一部の献立はダイレームにて掲示しております。すべての献立を掲示することは難しいですが、何らかの方法で患者さんに提供できるよう検討していきます。

### ●「外来待ち時間」

予約時間をもっと確実にしてほしい。

→当日の患者さんの診察が、見込みよりも長くなる場合があるため、予約の時間の範囲を超えてお待たせすることが多くなっております。いただいたご意見を真摯に受け止め、お待ちいただく時間を短くする有効な方法について、院内で検討してまいります。

### ●「外来相談」

がん看護相談室が設けられていることは知っていますが、なかなか相談するまでには至っていません。また、薬剤師さんに薬の服用について訪ねたいことがありましたが、窓口が分かりにくかったです。

→がん看護相談室では、「こんなことを相談してもよいか?」といった言葉をよく耳にします。しかし、意外と「こんなこと」と感じていることが、病気との向き合い方や治療選択などの重要な決定を困難にさせています。相談内容がまとまっていない場合でも、まずは気軽に立ち寄りください。また、薬の説明については、2階の総合案内(お薬渡し口)で、「薬剤指導希望」とお伝えください。その後、薬剤師が対応させていただきます。

### ●「喫煙」

当院敷地内及び周辺道路上などでの喫煙について、ご意見をいただきました。

→当院では、国による健康増進法の施行や、大阪府健康増進計画に基づいたすべての医療機関の推進活動、また、地域がん診療拠点病院としての役割を果たすため、「敷地内全面禁煙」を実施しております。職員、患者さん、来院される方々には、ポスター掲示により禁煙を周知し、ポイ捨てなどに対しても注意喚起を行っております。皆さんが健康に、気持ちよく過ごせるよう、禁煙にご協力をお願いします。

●その他 次のようなお褒めの言葉もいただきました。ありがとうございました。

「どなたにもお勧めできる、立派な温かい病院だと思えます。」「心のかような高度の医療が、そのまま行われていると感じています。」「解らないときは何でも親切に説明をしていただき、とても安心しております。」「職員のみなさん、本当にやさしくて居心地が良かったです。」

皆さんのご意見をもとに、ご期待に添えるよう、スタッフ一同全力を尽くしてまいります。ご協力ありがとうございました。

# 外来診療担当表

午前診療 午後診療

平成26年4月7日現在

	月	火	水	木	金	備考
消化器内科	津村	中島潤	邊見	丹家	齋藤	すべて予約制
	松田史	遠藤	圓尾	喜多	西島	
	関川	岡部	大崎往	米門	圓尾	
	大原		坂本祥	福原		
	津村	中島潤	邊見	丹家	齋藤	
	松田史	遠藤	丸井	福原	西島	
消化器内科(肝臓外来)	喜多	大崎往	木村	那須	西川	午後は予約制
糖尿病・内分泌内科	武呂	南部	米光	松田	南部	すべて予約制
	米光	武呂	松田	武呂	米光	
血液内科 (移植外来)	多田	水谷	右京	金子	平田	すべて予約制
	金子	平田	通堂	水谷	通堂	
	多田	水谷	右京	金子	平田	
	金子	小西	通堂	川西	高橋慧	
				多田	酒巻	
				右京		
リウマチ・膠原病内科	片山	船越(予約)	片山(予約)	伊藤博(予約)	伊藤能(予約)	すべて予約制
	片山	船越	片山			
腎臓内科	菅原	杉岡	大崎啓	土井洋	越川	すべて予約制
	越川	土井洋	菅原	大崎啓	菅原	
	菅原	杉岡	大崎啓	土井洋	越川	
循環器内科	担当医	田中	伊藤晴	長央	福地	すべて予約制
	林富	伊藤晴	稲田	稲田	稲田	
	(第1・3・5週:長央 第2・4週:福地)	田中	伊藤晴	長央	福地	
不整脈内科	内山	牧田		牧田		すべて予約制
	(ペースメーカーICD 担当医)	牧田		内山		
心臓血管外科		中山正(予約)	中山正(初診)		中山正(初診)	すべて予約制
小児科	住本(紹介初診)	(リウマチ・アレルギー外来 住本)	葭井	(腎臓外来 住本)	(血液外来 藤野)	すべて予約制
	(アレルギー外来 安西)	竹川	(アレルギー外来 肥田)	(神経外来 坂本晴)	金岡	
	(重心・神経外来 奥野)	(内分泌・代謝外来 野村)	中道	(心臓外来 杉)	新居	
	林直	(アレルギー外来 住本)	高野	(アレルギー外来 安西)	安西	
小児外科	松川		松川			
外乳腺外科	山之口	伊藤剛	山浦	吉村文	中島研	すべて予約制
	下池	金谷	中島康	有本	岡田	
	奥村	有本	三浦	赤川	福田明	
	露木	(乳腺 露木)	(乳腺 仙田)	(乳腺新患 露木)	馬場園	
	山之口	伊藤剛	山浦	吉村文	中島研	
	下池	福田明	中島康	有本	岡田	
整形外科	渡邊	鈴木隆	坂本武	大浦	富原	専門外来は予約のみ すべて予約制
	富	別當	堤	別當	福田垂	
	(脊椎外来 坂本武)	(膝関節外来 大浦)	白	(スポーツ・肩外来 鈴木隆)	(第1・3・5週:渡邊 第2・4週:堤)	
リハビリテーション科	好井	好井	好井	好井	富原	
脳神経外科	担当医	山下	西村英	山下	金本	予約・紹介のみ
		金本		西村英	堀口	
		土井健		担当医		

	月	火	水	木	金	備考
神経内科	高橋牧	(隔週 樹田・高橋由佳子)	鈴木聡	金田	峠	すべて初診のみ
	峠	金田	篠藤	高橋牧	中村	すべて再診のみ
	中村	鈴木聡	金田	永井	鈴木聡	
呼吸器内科	(喘息外来を兼ねる 吉村千)			西坂	若山	※禁煙外来は 午後のみ
	森田	西坂	森田	多木	(喘息外来を兼ねる 吉村千)	
	池上	中川和	若山	有安	中川和	
	吉田真 (若山)	多木	岡本菜	岡本菜	船造	
呼吸器外科		中出	渡辺裕		川邊	
産婦人科	(セカンドピジョン外来 手術相談外来) 中出		田中宏		川邊	午後には再診のみ ※月～金曜日 助産師外来あり
	午前:川島 午後:古田希 午前:安堂 午後:池田	芦原	池田	午前:堀内 午後:高松	安堂	
	吉岡	堀内	高松	吉岡	長野	
泌尿器科	大久保	光森	前野	西村一	高橋毅	
	高橋毅	住吉	光森	前野	大久保	
	河野	西村一(紹介)		住吉	河野	
	大久保	光森	前野	(前立腺外来 西村一)		
眼科	高山	中川聡	秋元	中川聡	大中	(火・木) 再診は予約のみ  予約制 午後の専門 外来は再診のみ。初診 は、各専門外来日の午 前中に、専門医の診察 をお受けください。
	秋元	岡本洋	中川聡	岡本洋	田口	
	廣井	田口(予約)	田口	廣井(予約)	高山	
	大中		高山		秋元	
耳鼻咽喉科 頭頸部外科	田中信	吉松	吉松		平塚	
	吉田尚	平塚	田中信		渡邊佳	
皮膚科	立花	立花	八木	立花	太田	すべて予約制
	八木	小林	小林	八木	小林	
	一ノ名	太田	中島利	一ノ名	一ノ名	
形成外科	重吉	小田	重吉	担当医	内藤	
精神神経科	和田	早川	大野	早川	本	
	横本	和田	土戸	三嶋	大野	
放射線診断科	藤堂	塩崎	前倉	梅岡	森本	診断
	前倉	(外科)	塩崎	(外科)	大嶋	検査(透視)
	森本・前倉	森本・梅岡	梅岡・森本	小嶋・塩崎	前倉・梅岡	検査(CT)
	梅岡	前倉	西尾	森本	大野	検査(MRI)
	塩崎	森本	(循環器科)	大嶋	藤堂	検査(RI)
		岡田・西尾		前倉・大野		検査(血管造影)
放射線治療科	梅岡・前倉	大野・塩崎	塩崎・前倉	森本・前倉	大嶋・塩崎	検査(CT)
	森本	梅岡	森本	塩崎	前倉	検査(MRI)
	塩崎	前倉	藤堂	梅岡	森本	検査(RI)
	石垣	遠山	担当医	遠山	石垣	
歯 口腔外科	井上	杉立	本橋	担当医	担当医	すべて初診(紹介)のみ
	杉立	本橋	杉立		杉立	すべて再診(予約制)

異動等により変更になる場合があります。当院ホームページの各診療科のご案内をご覧ください。各外来にお問い合わせください。

- 受付時間(月～金) 〈診療開始は午前8:45からです〉  
初診の方/月曜日～金曜日 8:30～11:30 再診の方/月曜日～金曜日 8:00～11:45
- 休診日 土曜日・日曜日・祝日・5月1日(本社創立記念日)・12月29日～1月3日
- 診察券 診察券は全科共通で使用いたしますので、ご来院時には必ずお持ちください。
- ご面会 〈病状によってこの限りではありませんが、必ず病棟の看護士にご相談ください〉  
平日/14:00～19:00 休診日/10:00～12:00、14:00～19:00 小児病棟(平日・休診日とも)/14:00～19:00
- 保険証等 保険証、医療証等は月に1度窓口で確認させていただきます。  
また、変更・更新の際は必ずご提出ください。

お問い合わせ TEL:06-6774-5111(代表)  
(大阪赤十字病院) <http://www.osaka-med.jrc.or.jp/>  
(赤十字全般) <http://www.jrc.or.jp/>

■平成22年12月1日より  
当院は敷地内全面禁煙です

当院は平成22年12月1日より、敷地内全面禁煙を実施しています。ご理解とご協力をお願いします。

